



# 健康相談室だより NO. 87

2024年 3月11日  
医療法人 大宮シティクリニック

## シルバー倶楽部ランチョンセミナーを開催しました

2月7日と21日にシルバー倶楽部会員様を対象としたランチョンセミナーを開催しました。今回は、当クリニックの常勤医師の内科専門医 後藤千尋医師が講師を務め、「健診胃カメラ・大腸カメラの最前線 ～内視鏡AIの今～」と題し、胃がんの基本的な知識をはじめ、内視鏡AIの特徴や便潜血検査陽性における大腸カメラ検査の必要性についての講演を行いました。



2日間で合計213名の会員様にご参加いただき、質問の絶えないとても活気のある講座となりました。次号では、講演の内容を詳しくお伝えします。

## ロコモ特別講演会を開催しました

2024年1月27日に当クリニックにて「Beyond the horizon-ロコモのこれまでとこれから-」と題して特別講演会を開催しました。ロコモティブシンドローム（以下ロコモ）は2016年に日本整形外科学会から提唱された概念で、加齢に伴う足腰の弱まりを意味し、寝たきりや要介護の大きなリスクになります。2022年には「フレイル・ロコモ克服のための医学会宣言」が提唱され、ロコモ予防の重要性が示されました。



当クリニックでは、2016年より人間ドックの基本項目にその評価法であるロコモ度テストを導入し、多くの受診者の方からご好評を頂いています。しかし、受診者の方々から、介護のリスク診断でもあるロコモ度テストを人間ドックで行う意義について質問されることが稀にあります。今回の講演会は、そのような質問に答えられるようになりたいと考え、また我々自身も人間ドックでのロコモ測定の意義を改めて学び直すためにロコモを考案された先生方をお招きしご講演を頂きました。ご講演を頂いたのはロコモ チャレンジ！推進協議会の前委員長の泉田良一先生、委員長の大江隆史先生、副委員長の石橋英明先生です。



泉田先生からはロコモがどのように考案されロコモ度テストがどのように開発されてきたのかなどのロコモの歴史をお話し頂きました。大江先生からはロコモを測定する意義からどうやって広げていくかなどこれから先の計画などをお話し頂きました。最後に石橋先生を交えたパネルディスカッションで、子どもや若者に起きているロコモの現状やその対策などを話し合いました。

ロコモは高齢者の足腰の弱まりを予防するために開発されましたが、実は中年層には既にその徴候が見られ、それは若い時からの生活習慣がその原因となることが様々なデータにも示されています。当クリニックでのロコモ度テストの傾向を見ても40代からロコモに該当する方はいらっしゃいます。ロコモは糖尿病やメタボリックシンドロームの増悪に関連することも知られており、健康に生きるためには早期からのロコモ予防が重要であると言えます。受診者の皆様方におかれましては、「自身がロコモになっていないか?」「予防は十分にできているか?」を意識して、豊かな人生設計を立てて頂ければと思います。今回の講演会を撮影したものを当クリニックのYouTubeチャンネル「健康未来講座」で公開予定となっております。ぜひチャンネル登録を頂きご覧頂ければ幸いです。

副理事長 中川 良

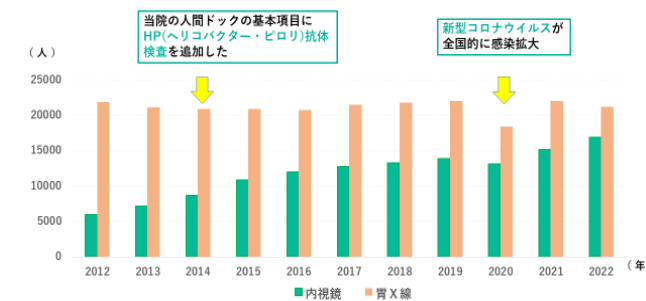


## 上部消化管内視鏡検査における補助診断AI導入に関する検査施行医の意識調査

今回は、第64回人間ドック学会学術大会(2023年)にて発表した「人間ドックでの上部消化管内視鏡検査における補助診断AI導入に関する検査施行医の意識調査」の内容を掲載します。

右図は当クリニックの直近10年間における上部消化管検査の受検者数推移です。胃部X線検査は10年間でほぼ横ばいであるのに対し、胃内視鏡検査は10年間で3倍近くも受検者数が増加しています。このことから、胃内視鏡検査の需要が年々高まっていることが分かります。

当院の上部消化管検査 受検者数推移



これまで、医師1人あたりの検査人数は10名前後でしたが、年々医師1人が担当する検査人数は増加傾向にあります。また、現在では20名近くの検査施行医が在籍していますがその多くは非常勤医師です。そのような背景から「検査の質が正確に均一化できているのか」という懸念がありました。

そこで、当クリニックでは検査施行医の癌・腫瘍の発見や見落とし防止の手助けを行う目的で補助診断AI(CADEYE:キャドアイ)を導入することにしました。しかし、CADEYEは2022年に薬事承認されたばかりの最先端技術であり、2023年4月時点では全国でも導入している施設はまだ数施設しかありませんでした。そのためCADEYEに対する意識調査を検査施行医を対象にインタビュー形式で行いました。インタビュー内容は、「検査への支障の有無」、「検出支援モード(癌や潰瘍などの所見を見つける機能)への意見」、「ランドマーク(胃の中を全て観察できたことを示す見落とし防止機能)への意見」、「全体的な感想」の4項目です。

結果として、13名の医師から回答を得ることができました。「検査への支障の有無」に関しては、13名中12名が「検査へ支障はない」と回答がありました。「検出支援モードへの意見」については、「AIの拾いあげの多さに戸惑った」という意見がありましたが、「タイムラグがなく観察できるのは好感が持てる」という意見も多くありました。また、「ランドマークへの意見」については、「胃を全て観察したのにコンプリート状態にならない」といった精度に関する意見が多くありました。最後に、「全体的な感想」としては、「検査時の使用感は特に違和感なく使用できた」や「全体的に良い印象を持っている」という意見が多くありました。

「AIの拾いあげの多さ」や「ランドマークの精度」などの検査の負担になりうる要因がありましたが、補助診断AIの導入は検査施行医からはポジティブに受け入れられていることが分かりました。

今後は、補助診断AI導入以降の癌発見率について分析をしていきたいと思っております。

放射線部 市川裕也



健康相談室だよりは当クリニックホームページにも掲載しております。バックナンバーもご覧いただけます。

\*\* ご意見・ご要望等ございましたら、遠慮なくご連絡ください\*\*

ホームページ URL : <https://www.omiyacityclinic.com/>

ご意見・ご感想 : [sodan@omiyacityclinic.com](mailto:sodan@omiyacityclinic.com)



医療法人 大宮シティクリニック 健康相談室